中海周辺における言語革新と境港市

国語学教室　前　川　喜久雄

1．1　本稿の内容

鳥取大学教育学部国語学研究室では1984，85両年の夏期休暇に学生有志の協力を得て鳥取・島根県境地域の言語調査を行なった。都市市街地の一部を除くほぼすべての集落180地点（小字単位）を訪れ，各集落生え抜き・60歳以上の御老人から語い・音声についての調査資料を収集した。調査資料は現在までに第一回の地図化を終了している（美坂（1986））。本稿では，特に境港市に焦点をあわせて言語地理学的な考察を行なう。

1．2　調和地域の地理的特色

Map 0から分かるように，中海を取り巻くように設定された調査地域には鳥取県側に米子市・境港市，島根県側に安来市・松江市・東出雲町・美保関町・島根町・八束町（大根島）の4市4町（なお，4町はすべて島根県八束郡に所属する）の一部もしくはすべてが含まれている。このように多くの行政区域にわたる上に，本地域は自然地理的にも興味深いコントラストを示している。つまり，米子から境港に至る弓浜半島地域と米子から安来・東出雲を通り松江南部に至る国道9号線沿線地域とが共に平坦な地勢であるのに対し，島根半島に位置する美保関，島根の両町部は海岸線から急激に200m以上の険阻な山塊が盛り上がる交通に難の大きな地勢である。

このように人文地理的にも自然地理的にも錯綜した地域においてはどのような言語の伝播・革新が生じるであろうか？　それが調査開始時において念頭にあった問題意識であった。

1．3　調査項目と調査上の問題点

148項目からなる調査票を使用した。これらの項目のほとんどは『日本言語地図』（以下LAJと略）および『中国地方五県言語地図』（同じくLA5）所載の項目中から選んだものであり，その場合質問文（提示する絵があればそれ）も全く同一である。フェイスシート並びに若干の項目は『千葉県館山市および安房郡言語地図』より借用し，更に当調査独自の項目若干を追加している。

当該地域ではいわゆる雲伯方言が色濃く行なわれている。調査実施に際しては，この方言の特色である複雑な音声の様相を調査員（その多くは初めて言語調査を体験する者）が正確に記録することは極めて困難ではないかと予想された。調査前数回のミーティングにおいて筆者が雲伯方言の音声特徴を概説し（その際，録音テープによって実際の音声を聴取させた）片仮名による表記を統一しようと試みたが，結果をみると実効があがったといい難い項目も多い。以下で地図を解釈するにあたってはこの点に留意して煩雑な表記上のバリアントを大胆に整理していることが多い。

2．言語地図とその解釈

以下の論述においては調査項目を〈　　〉内に，また調査によって得た個々の語形（あるいは幾つかの語形をまとめたもの）を／　　／内に示すこととする。

2．1　〈トーモロコシ〉(Map 1)

LAJ182図をみると，今回の調査地域には／TOOGIMI／，／KIMI／，／NAMBAGIMI／，／NAMAGIN／，／NAMMANGIMI／，／NAMBAGIN／が記録されている。これらの語形からは前半要素として｛TOO｝，｛NAMBA｝，｛NAMBAN｝，｛NAMA｝，｛NAMMAN｝，後半要素として｛KIMI｝，｛GIMI｝の各形態を抽出することができるが，これらはすべて我々の資料にも出現している。

地理的分布を見ると，／ナンバ(ン)／を前半要素とする語形(これをナンバ類と称することにする)が松江を中心に東出雲と島根，美保関を含む地域に，／トー／を前半要素とする語形(トー類とする)が米子と安来に分布しており，これに対し，境港を中心とする地域には新しい方言形／ナマギミ／が広がっている。／ナマギミ／が新しく生まれた語形であることは次のように論証することができる。弓浜半島の中程，トー類と／ナマギミ／が接するあたりにナンバ類が7地点まとまって分布している。この分布は境港を含む弓浜半島全体が古くは島根半島と同じくナンバ類の地域であり，後に境港一帯が／ナマギミ／に変化したために取り残されたもの――いわゆるABA分布と解釈するのが自然である。

美保関の／ナンマ（ン）ギミ／も注目に値する。境港の／ナマギミ／は境水道を挟んだ対岸の美保関南岸にも3地点記録されているが，／ナンマ（ン）ギミ／はちょうどこの／ナマギミ／がナンバ類と接する地域に存在しており，両者の混交形であると思われる。

Map 1では，境港は新しい方言形を生み出し，それを周辺地域に浸透させつつある。

2．2〈オタマジャクシ〉(Map 2)

この地図は続いて紹介するMap 3と共に境港の持つ新しい方言形の発生源としての性格を最も雄弁に物語っている。

凡例に（一部は地図左の備考欄にも）記した12の方言形のうち実に7つが境港に存在し，しかもそのうち／ポッポギャー／，／ネンネンポッポ／，／ナッポ（ッポ)／，／ドデクー／の4語形は境港だけにしか見ることができない。各々の語形が小さな分布領域を形成している様は――例えて言えば――生物界における「棲み分け」を思わせるものである。弓浜半島南部を含む他のすべての地域が／オタマジャクシ／か，その縮約形／オタマ(ン)／，さもなくば／キャーコ／の類であることと比較すると，境港における方言形の豊壌は際だった印象を与えずにはおかない。[1]

2．3〈カタツムリ〉(Map 3)

柳田国男の『蝸牛考』以来，方言形の多さで知られる項目である。Map 2程ではないにせよ，ここでも方言形に富む弓浜半島と，それ以外の地域での標準語形(／カタツムリ／，／デンデンムシ／)とが鮮やかなコントラストを示している。

残念ながら我々の得た地理的分布の資料のみからは，Map 2におけると同様，境港に共存する多くの方言形の間の通時的関係を明確にすることができない。ただし，弓浜半島中部と米子市東部とに離れて分布する／バイバイ／は米子中心部に近年受容された標準語形／デンデンムシ／によって分断されたものであって，一時代前には連続した分布であったと思われる。

実際，LAJ236図によると鳥取県中・西部から島根県東半，更には広島・岡山にかけての広い地域が／マイマイ／の地域であり，また同237図（236図で一つにまとめられていた／マイマイ／類を詳

しく示した地図）には米子近辺に／BYAABYA／，／BAIBAIMOMOSI／の両語形が認められる。

Map 2，3においては境港は多くの方言形を生み出し，共存させている。

2．4〈ツララ〉(Map 4)

LAJ262図に認められる／SIMIZAE／，／SINZAE／，／SYAGOO／，／SAEBO／，／SAYA／，／CURARA／の各語形はいずれも調査資料に現われている。（ただし作図の段階で，例えば／サイボ／と／サエボ／をまとめて／サエボ／としたようなことがあるので，凡例には必ずしもすべての語形が示されていない。）

Map 4の上ではLAJやLA 5のようなマクロ言語地図では看過されてしまったいくつもの小規模な言語革新の痕跡を辿ることができる。推定された通時変化は次のようなものである。Map 4全体で考えると，先ず松江を中心に島根半島全域と東出雲が／サヤ／であった状態が想定される。この有力であった／サヤ／の分布は，その領域の多くを，やはり松江を中心に生じた／サイボ／に取って替わられることになった。Map 4で東出雲と島根，美保関に認められる／サヤ／はその残存である。

一方，弓浜半島一帯は米子と共に古くは／シミザエ／の領域であった。そこに境港を中心に新しく発生した／シャゴ／が南下し，現在Map 4では半島を両語形が折半する姿となっている。

境港に発生した／シャゴ／は美保関にも深く浸入した。その結果，／サヤ／は東西に分断されて現在のABA分布を示すことになったのである。また，美保関の中海沿岸では松江からの／サイボ／と境港からの／シャゴ／とが接触し，混交形／サイボ／が発生した。

さらに上記のような方言形の発生・変化とは別に，境港と米子，安来では標準語形の／ツララ／も受容されつつある。

Map 4において境港は一方で新しい方言形を発生すると同時に，標準語形受容の中のひとつともなっている。この意味でMap 4は，既に紹介したMap 1～3と後述するMap 7，8との中間に位置づけることができる。

2．5〈アグラ　ヲ　カク〉(Map 5)

標準語形を含めたすべての回答は／ヒザ／，／アグラ／等の前半要素と／カク／，／クム／等の後半要素とに分けることが可能である。ここでは前半要素にのみ注目して作図を行なった。

／ヒザ／が全域を覆うなかで，境港一帯には独自の方言形／アブタ／がまとまっている。そして――格助詞は省略されるものの――ほぼ標準語形に相当する／アグラ／もまた境港一円に多く分布する。／アブタ／，／アグラ／のこの共存は両者の混交形／アグタ／を更に生み出している。

境港が独自の方言形を有するという点で，この地図は既出のMap 1～3と共通している。しかし，LAJ52図をみると鳥取県東部・中部一帯に／アブタ／が存在し，とんで美保関に2地点に存在している（美保関の1地点は／ヒザ／と併用）。一方，島根県はほぼ全域が／ヒザ／である。そうすると境港の／アブタ／は元々弓浜半島の全体を覆っていたものが，／ヒザ／の東進によって孤立してしまったものと見るほうが妥当であろう。従って同じく境港が独自の方言形を有するといっても，Map 1～3が新しい語形を発生させているのに対し，Map 5の／アブタ／は古い方言形の残存である点で，根本的に相違していると考えねばならない。

境港は時として古い方言を保存することもあることをMap 5は示している。(2)

2．6〈ステル〉(Map 6)

LAJ62図において中国地方一円を覆う／SUTERU／，／SITERU／がMap 6でも調査地域全体を覆っている。

問題は弓浜半島と島根半島の北岸中心に分布する／ナゲル／と境港と美保関の南岸に合計6地点

分布する／ホカス／の二つの方言形である。LAJ62図からは／ナゲル／が東北地方を中心とする大変に有力な語形であることが分かる。そして東北6県以外では石川と福井の県境に4地点，とんで鳥取の東伯郡赤碕町に／ステル／との併用で1地点，更にとんで島根の那賀郡旭町に1地点，主として日本海沿岸に／ナゲル／が点在している。LAJの解説書もこの分布に注意を払っているが，結局

> 今は，これらのナゲルは東北のナゲルとは直接関係ないものであり，ホオルの単なる言い換えと考えておく。
>
> （日本言語地図解説——各図の解説2——p. 18）

としている。

さて次に／ホカス／についてLAJ62図をみると，これもまた近畿圏に中心を持つ非常に有力な語形であることが分かる。しかし，中国地方への影響ということになると岡山に／ステル／との併用が1地点認められるだけであり，この場合も我々の調査地域への直接的な影響は考えにくい。

むしろ／ホカス／は，後に述べるように古く北前船の時代から海路を通して交流が盛んであった大阪から，中間地帯を飛び越して境港へ受け入れられたのではなかろうか？この推測が正しいとすれば，その後にLAJの解説が想定しているような形で，／ホカス／から／ナゲル／が生じたとも考えられるであろう。いずれにせよ，Map 6については我々の資料は不十分であり，単なる推論の枠を越えることは不可能である。

2．7〈スッパイ〉（Map 7）

LAJに従って梅干しの味をどう言うかを尋ねた項目である。先のMap 4では／ツララ／が，Map 5では／アグラ／が標準語形として受容されていたように，この項目では／スッパイ／が境港と米子を中心に受け入れられつつある。LAJ41図で我々の調査地域を覆う／スイー／との併用も多いが，その内2地点（64132018，64134435弓浜半島南部と米子市街）では／スイー／〉／スッパイ／との内省が得られている。

美保関にも／スッパイ／が多く認められるが，これは境港の影響と見なすことが可能であろう。Map 7において境港は専ら標準語形伝播の中心となっている。

2．8〈オソロシイ〉（Map 8）

この地図でもやはり標準語形である／コワイ／の分布が注目に値する。境港，米子の両市が受容の中心となっていること，更にその影響が美保関にも及んでいる点もMap 7と同様である。

Map 7と本図の相違点は，Map 7では単一の方言形（／スイー／）が全調査地域を覆っていたのに対し，本図では二つの方言形／キョーテー／と／オゾイ／が東西の対立を示している点である。[3]

なお，もうひとつの標準語形／オソロシー／の分布が美保関を中心とした島根半島に限られている事実は何等かの解釈を必要とするであろう。あるいは以前に境港を中心に／オソロシー／が受容されて島根半島に伝播し，その後に今度は／コワイ／が受容・伝播されたとも考えられるが，現在の境港に1地点も／オソロシー／が記録されていない以上，これは全くの推論の域を出るものではない。

2．9〈正座スル〉（Map 9）

Map 9は一見するとMap 7，8と同じく境港が標準語形／スワル／を受容し，周辺に伝播させた結果かと思える。しかしながらLAJ51図を見ると中国地方全体が／スワル／と／カシコマル／とに二分されており，Map 9は両者が接する前線の一部を捉えたに過ぎないことが分かる。／スワル／は

Map 6 における／ステル／と同様，古くから存在する語形であり，真に近年受容されたと見なすべきものは，米子を中心とする／セーザスル／である。この項目における境港の働きはMap 5 の場合と同じく古い語形の保存である。

3．1　境港の果たす役割

紹介してきた 9 枚の言語地図を，今回の調査地域の言語革新において境港が果たしている役割という観点から分類してみよう。

A　境港が新しく方言を発生させ，あるいは更に周辺地域に伝播させているもの。

Map 1　／ナマギミ／
Map 2　／ポッポギャー／，／ネンネンポッポ／
　　／ナッポ（ッポ）／，／ドデクー／
Map 3　／ゴンゴ／，／メーダシ／，／ツノーメ／
Map 4　／シャゴ／

B　境港が標準語形受容の中心となり，あるいは更に周辺地域に伝播させているもの。

Map 4　／ツララ／
Map 5　／アグラ／
Map 7　／スッパイ／
Map 8　／コワイ／

C　境港が古い方言形を保存しているもの。

Map 5　／アブタ／
Map 9　／スワル／

A，Bは言語革新において積極的な役割を果たす場合，Cは反対に言語革新に抵抗する場合である。一見して明らかなように境港は積極的な役割を果たすことが多い。Map 5 はCの他にBにも分類されているし，ここで分類から除外したMap 6 における／ホカス／が2.6で推測したように海上交通を経て，大阪から流入したものであれば，これは標準語の受容に類した現象であるから，Bに分類してもおかしくはない。総じて境港の積極的役割は一層強調されることになる。

本稿でここまでに紹介した 9 枚の地図は，言うまでもなく境港のこの性格を強調するために選ばれたものであるから，上記の分類においてこのような結論が生じるのは当り前のことではある。しかしながら――例えば――都市の規模として境港とほぼ同一である安来については，既に境港に与えたものと同様の性格を付与する地図を選び出すことはほとんど不可能であることを指摘しておきたい[3]。また松江は多くの地図において有力な語形の中心地と見なせるのであるが，それはLAJにも広範囲にわたって記録されているような語形であって，Map 2，3 に典型的に見られたような，新しい方言を次々と生み出す働きは絶えて見せていない。

3．2　「浜言葉」の範囲

境港を中心とする弓浜半島の言葉が一種独自のまとまりを示すことは地元人の言語感覚にも明らかであり，これを特別にさして「浜言葉」と呼ぶことがある。それでは，この浜言葉が行なわれる地理的な範囲はどのようなものであろうか？その答えを得るための一つの方法は，各地図に表われ

た境港の影響を加算して一枚の地図の上に示すことであろう。Map10は境港固有の語形と見なされるものが各調査地点でどの程度共有されているかを示したものである。

Map 4を例にとれば，境港が伝播の中心と見なされた／ツララ／・／シャゴ／と／シャゴ／の影響によって生じたと考えられる／サイゴ／の3語形を境港固有のものとして，これらのうちいずれか一つが記録されている地点に数量1を，それ以外の地点には数量0を与える。同様の作業を9枚の地図に施して加算した結果がMap10に示されている。境港の数値が高いのは当然であるが，それに加えて弓浜半島の南部と美保関のほぼ全域が境港の影響下にあることが分かる。

浜言葉の範囲を調べるもう一つの方法は，地元人によって典型的な浜言葉と見なされている語形の分布を調べることである。Map11は，そのような語形としての／アイキョー／を調べた結果である。

浜言葉としての／アイキョー／は軽い驚きの意味を表わす間投詞であり，弓浜半島を少しでも歩けば必ずといっていいほど耳にすることができる。この語形はたまたま標準語においても「愛敬」として存在するので調査にあたってはそれを利用している。インフォーマントに（／アイキョー／という言葉を）1自分で使う，2自分では使わないが聞いたことはある，3聞いたこともない，という選択肢を示して選択してもらい，1，2の場合にはどういう意味かを質問している。

Map11とMap10との間に強い相関が存在することは一見して明らかである。／アイキョー／を浜言葉として用いる地域はMap10において3以上の数量を与えられた地域にほぼ一致している。

地元人の言語感覚としても，また従来この地域の方言を解説した書物においても／アイキョー／に代表される浜言葉は「弓浜部特有の語」（生田(1975) p. 117)，「弓浜半島のことば」（境港市(1984) p. 151)等と規定されているが，実際には美保関もまた浜言葉の範囲に入っているとすべきであろう。

3．3　境港の影響を支えるもの

以上の考察によって境港の言語的影響が弓浜半島および美保関のほぼ全域に及ぶものであることが確認された。本節ではこの影響力を可能ならしめた言語外的な条件について初歩的な考察を加えてみたい。

Map12はフェイスシート中の質問項目「嫁入り道具は昔何処で買ったか？」に対する回答である。大局的に見てこの地図は美保関の住人が消費経済において境港に強く依存していることを示している。この項目で境港と回答した地点の分布とMap10において3以上の数量を与えられた地点とは，美保関に関する限りほぼ一致していると見てよいであろう。

今少し詳しくMap12を眺めてみると，美保関町の西側では境港と松江の両方を回答した人が多く，東進するにつれ境港単独の回答が多くなる。そして（国研方式の地点番号で上4桁が）6403の地域に入るとほぼ境港の地域なのだが，これには交通路の問題が関係している。Map13には実線で島根半島における主要道路を示したが，美保関北岸の東半分は自動車等による交通が不可能である。美保関西半の住人が直接松江行きのバスを利用できるのに対し，6403地域北岸の住人は一旦南岸に出てからでないと松江へ移動することができない。このような理由で美保関東半の回答には松江が減少するのである。[4]

境港が美保関に及ぼす影響の基盤はこのように経済圏と交通路によって形成されていると解釈できるが，弓浜半島の南部への影響については同断ではない。Map12に明らかなように，この地域は経済的には米子に依存しているのである。

ここではむしろ入植の歴史が重要な基盤を形成しているようである。Map13の矢線は，江戸時代以降に境港から弓浜半島南部へ入植した農民の移動の方向を示したものである。（岩永(1978) p. 95

の図150を参考に，弓浜半島内部における移動の大略を示した。この他に大根島からの入植も行なわれている)。Map10とMap12を重ね合わせると，Map10で5以上の数量が分布している地点は境港市域以外ではMap12の矢印の先端に集中していることが分かる。永続的な人間の移動である入植による言語の影響は一時的な移動しか伴わない経済依存による影響よりもはるかに強いことが予想されるが，Map10の分布はこの違いを反映しているもののようである。

4．まとめにかえて

以上の論述によって境港が言語地理学的にみて非常に活発な活動を行なっている地域であることを示しえたと思う。1861年（安政5年）の作といわれる『伯耆志』は当時の境村（237石，330戸，2023人）について次のように伝えている。[5]

> 当村は浜の北極にして北出雲島根郡に相対す。其間3丁50間の海水を隔つ。西方水路外江浦を左に回れば内海を経て米子に至り直に行けば出雲松江に至る。東方鼻浦を過くれば外海にて北は彼島根郡なり。3里にして三穂の関に至る〔略〕。故に大船時に暴風を避けて此浦に入り諸国の商船且暮往来して万物を交易し帆柱の東西時を措かす。且境内の海水深数尋にして大船と云へども窓下に泊するが故に水陸の便他に異なり実に中国の大港と云ふべし。一村これが為めに豊穣にして恒に夜絃朝歌の声を絶たす。又二国の山水風景を尽くせり。

この記述から既に明らかなように境港は古くから山陰における交易の一中心として発達してきた集落である。そして，その交易の相手方としてまず第一に挙げられるのが大阪である。江戸時代にも北前船によって大阪と結ばれていた境港には明治以降も海路大阪から文明開化の文物が運び込まれることが常であった。明治17年には大阪―下関―境港を結ぶ定期航路が就航し，同38年には私鉄鶴阪鉄道（舞鶴―大阪）を利用することにより境港と大阪は一日で結ばれた。

一方，やがて海路にとって替わる鉄道に関しても，明治45年の山陰線（京都―出雲今市）開通に先立って既に明治35年に境線（境港―米子）が開通していることは弓浜半島南部への境港の影響を考える際に重要であろう。

松江，米子といった人口も多く政治・経済の中心にある都市に挟まれながら，境港が言語に関しては予想外に大きな影響を有していることの背景には，ここに述べたような種々の歴史的な因子が介在しているであろうことが予想される。地域社会における言語革新の歴史の理解にはその社会の住民の背負っている生活の歴史とでも言うべきものに対する理解が必須の条件となることを今回の調査結果は改めて教えてくれている。[6]

謝　辞

まず誰よりも調査にあたってご協力をいただいた180名の皆様に改めて心からお礼を述べさせていただきます。境港，米子両市の社会福祉協議会からは調査の計画段階でご助力をいただきました。境港市役所の市史編さん室では貴重な文献をコピーさせていただきました。記して感謝のしるしといたします。

短い夏休みをつぶしてくれた学生諸君，本当にご苦労さまでした（Last but not least!）

註

(1) 弓浜半島東岸に沿って／ネンパ／の類が分布しているが，この語形は境港に生まれたものではないと思われる。本図で／ネンパ／が分布する地域に限っての小規模な言語革新が，今回はとりあげなかった他の何枚かの地図でも確認されるのである。この現象についてはいずれ他の機会に論をまとめる予定である。

(2) 徳川編（1979）は，／オゾイ／を「オソロシイよりもさらに古い西日本のいい方であろう。」（p. 109）とし，また「中国地方の東部にキョートイ類，その西にイブセー類がある。いずれも「けうとし」「いぶせし」であり，「恐ろしい」の意味では『日葡辞書』その他にのっているから，この意味で，少なくともこのころ使われていたことが分かる。」（執筆は野元菊雄氏）と述べている。いずれにせよ全国的に見ると非常に古くから存在する語形であると思われるが，美保関に／キョーテー／が広がったのはそう古いことではないであろう。美保関町東端の4地点に／オゾイ／が記録されており，島根県の／オゾイ／と共にABA分布を形成している。島根半島は以前には／オゾイ／一色であったと考えられる。

(3) 1983（昭和58）年3月末の住民基本台帳による人口は次のとうり（十位で四捨五入）。

米子市	129500	境港市	38300	松江市	134700	安来市	33300
島根町	5100	美保関町	8700	東出雲町	11300	八束町	4700

また参考までに朝日新聞社編（1978）による「1人当たり民力水準」（全国平均＝100）を4市についてだけ示す。

米子市	106.5	境港市	90.9	松江市	110.6	安来市	89.7

人口でも民力水準でも米子と松江，また境港と安来が各々ほぼ同一の水準にあることが分かる。

(4) Map12で美保関の東端に2箇所だけ「松江」の回答が記録されている（1地点は「米子」「境港」と併答，もう1地点は「松江」単独）。本文で述べたようにこれらの地点から松江へ買物に行くのは境港と比較すると大変に困難であるのだが，この地域の住人にはそれだけの動機が存在するのであろう。Map 4やMap 8におけるABA分布が，この地域の住人が松江を中心とする語形を保持することによって形成されていることは言語地理学的に見て大変興味深いことである。

(5) 佐伯元吉編（1972）p. 326より引用。引用に際しては句点を施し，また一部の漢字を現行のものに改めた。

(6) Grootaers（1977）は千葉県館山市が境港と同様に方言形標準語形を問わず言語革新の中心地となっていることを報告している。館山市もまた港湾・水産型の都市であることは大変に興味深い。

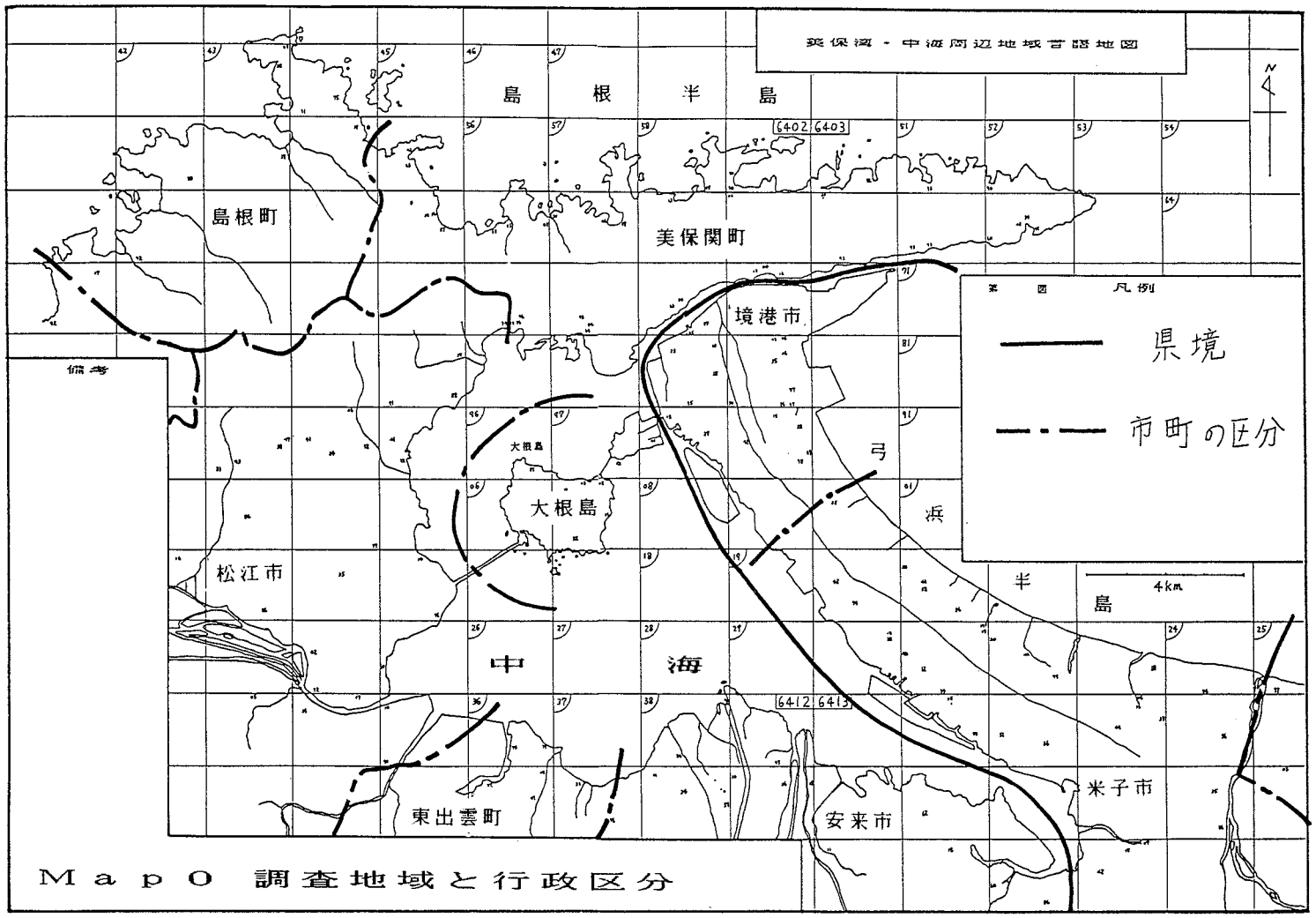
参　考　文　献

朝日新聞社編（1978）　『別冊民力エリア・都市別民力測定資料』朝日新聞社
生田弥範（1975）　『因伯方言考』国書刊行会（初版1937年）
岩永實（1978）　『鳥取県地誌考』岩永先生記念論文集刊行会
国立国語研究所（1970）　『日本言語地図』1～6巻　大蔵省印刷局
佐伯元吉編（1972）　『因伯叢書　第四冊』名著出版
境港市（1984）　『境港　昔と今』境港市

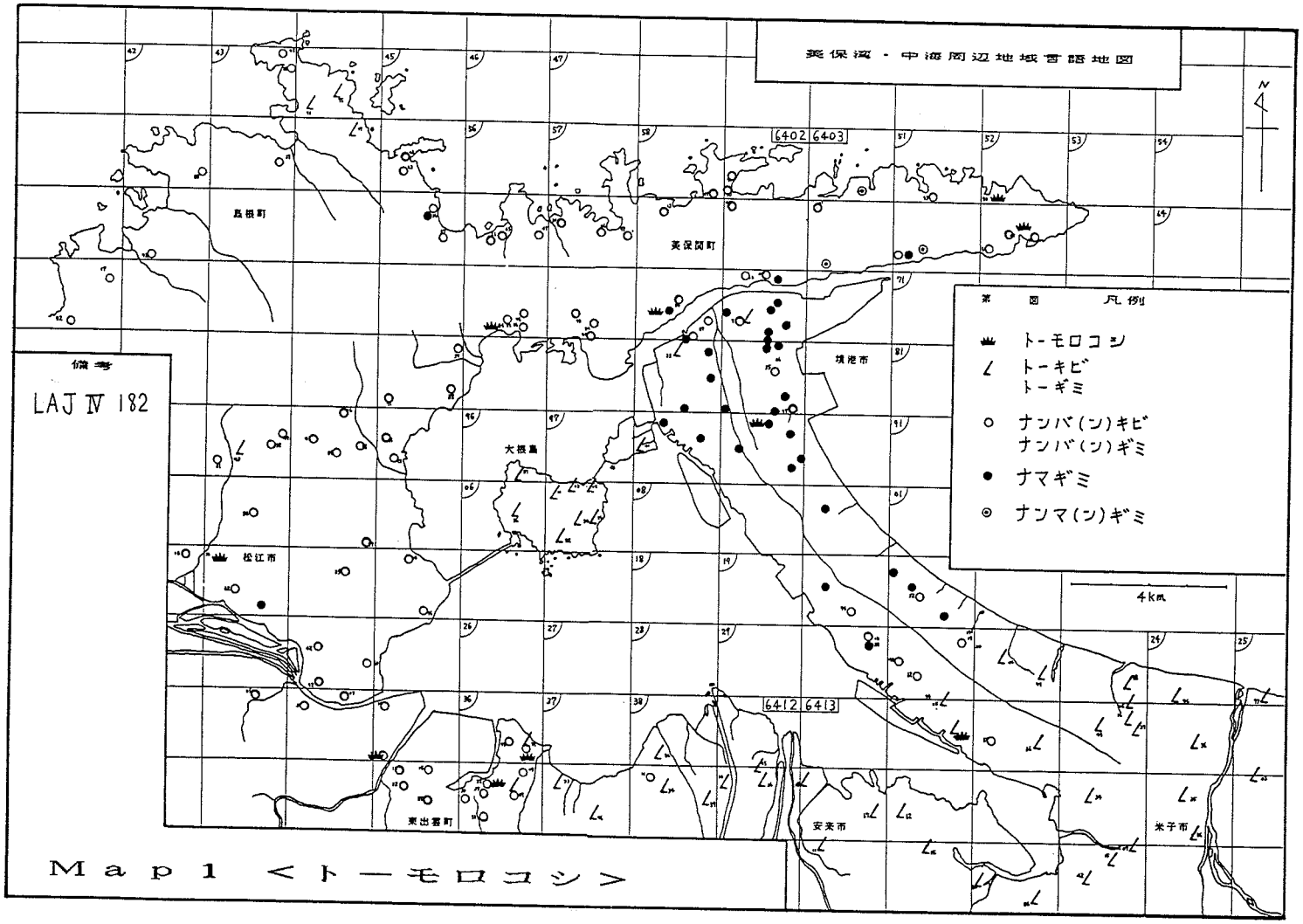
佐々木英樹，W. A. グロータス（1984）『千葉県館山市および安房郡言語地図』上智大学大学院言語学研究室
徳川宗賢編（1979）『日本の方言地図』中公新書533
広戸惇（1965）『中国地方五県言語地図』風間書房
美坂朗生（1986）「美保湾・中海周辺地域の方言地理学的研究――弓浜半島を中心に――」鳥取大学教育学部卒業論文
Grootaers, W. A. (1977) "THE LINGUISTIC ROLE OF A PROVINCIAL CITY IN JAPAN" *SOPHIA LINGUISTICA* III (Tokyo ; Sophia Univ.)

付記：本稿の内容の一部は1986年 4 月27日に広島方言研究所主催の第15回方言研究ゼミナールで口頭発表したものです。席上ご批正を賜りました皆様にお礼申しあげます。（1986／07／24．初校時）

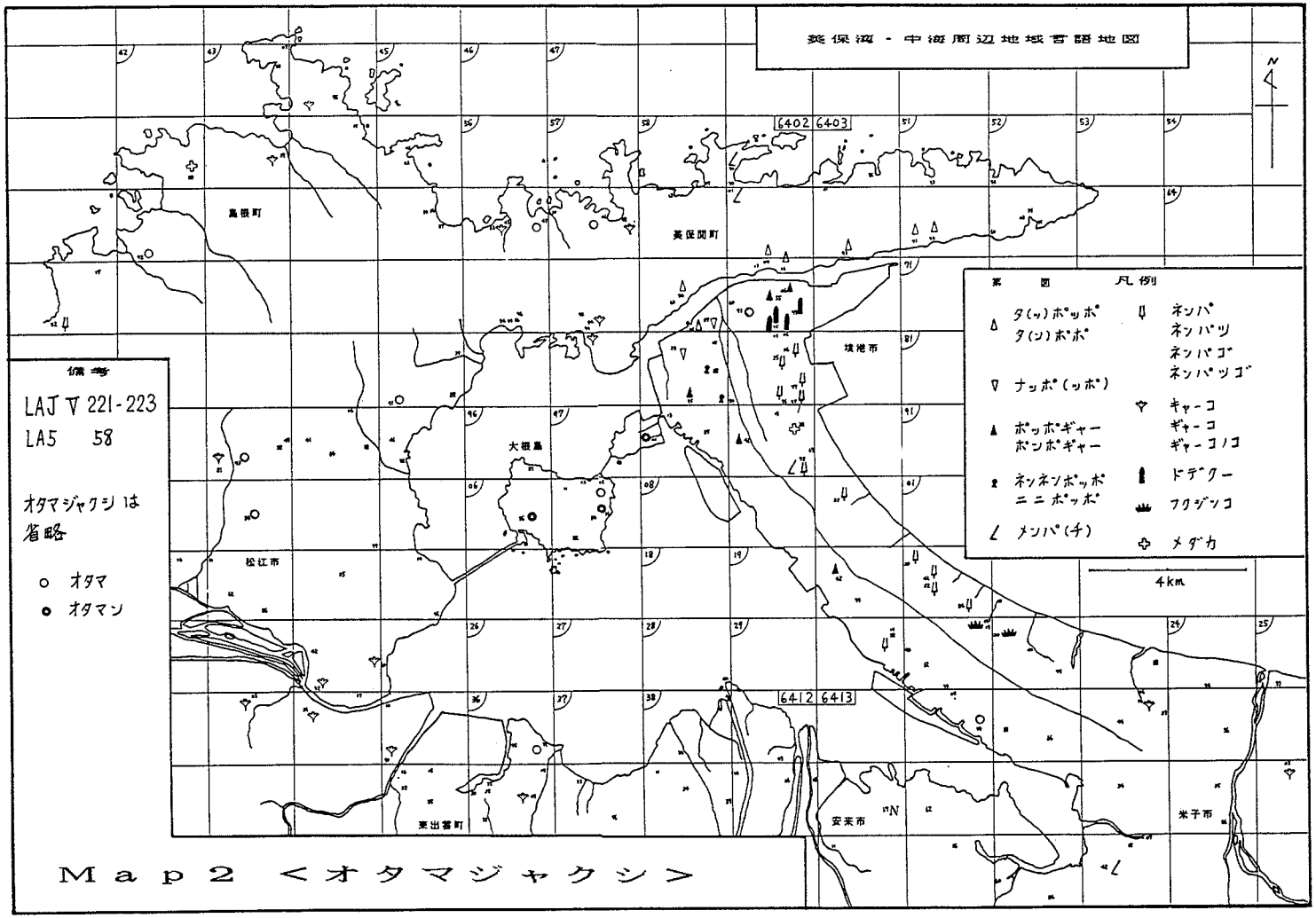
（昭和61年 4 月15日受理）



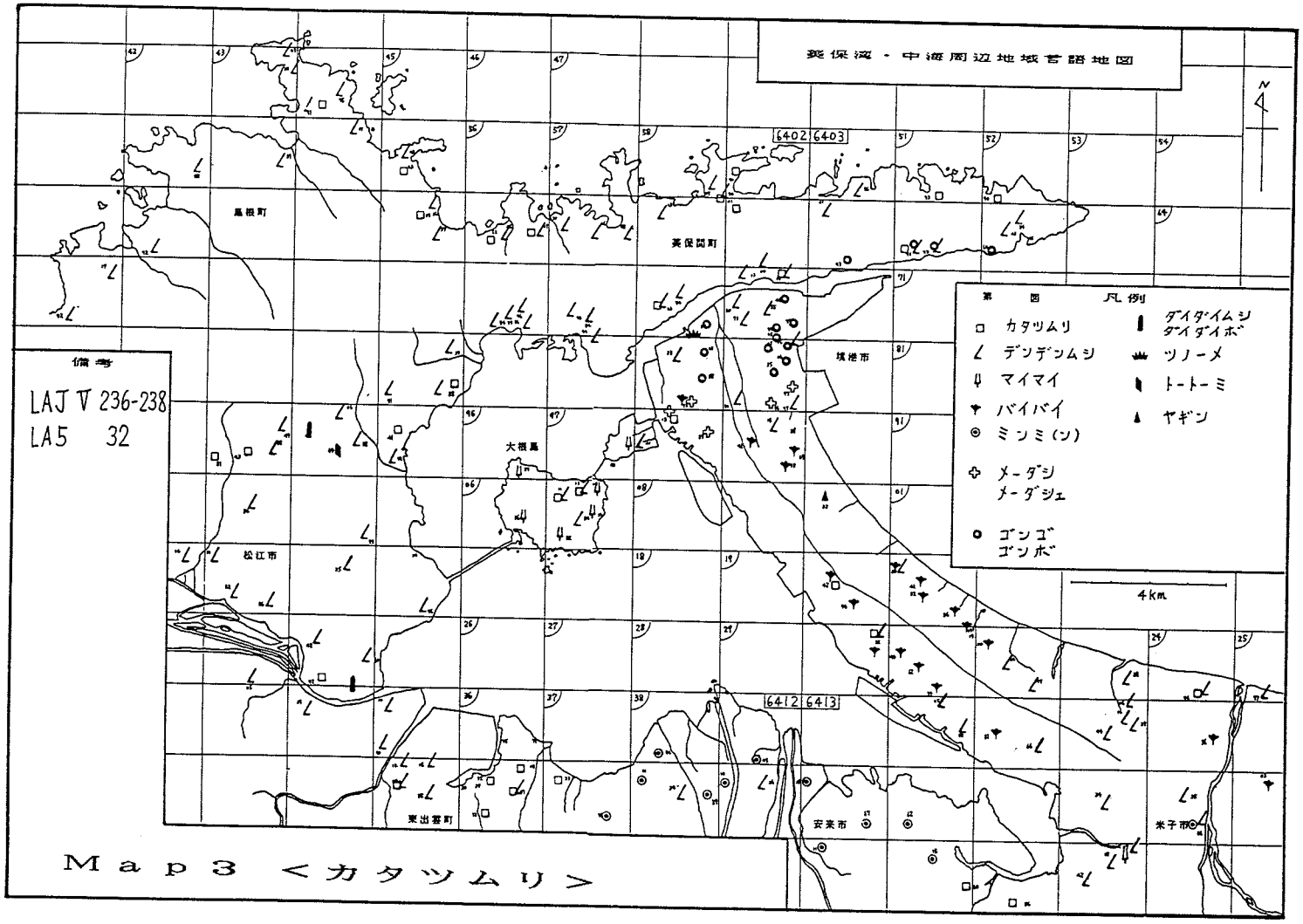
Map 0 調査地域と行政区分


美保湾・中海周辺地域言語地図
N
6402 6403
6412 6413
島根町
美保関町
境港市
大根島
松江市
東出雲町
安来市
米子市
4km
凡例
トーモロコシ
トーキビ
トーギミ
ナンバ(ン)キビ
ナンバ(ン)ギミ
ナマギミ
ナンマ(ン)ギミ
備考
LAJ Ⅳ 182

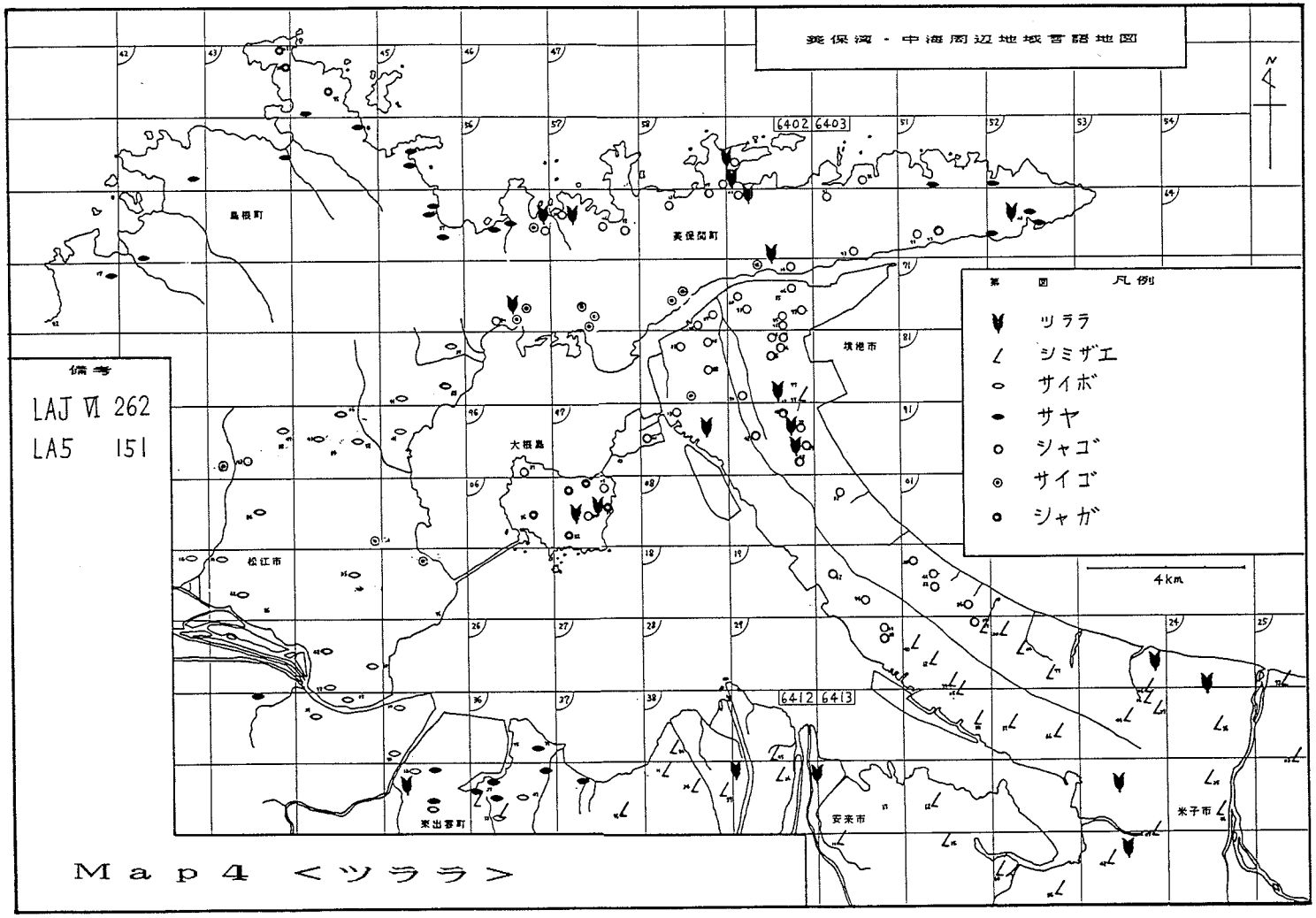
Map 1 <トーモロコシ>



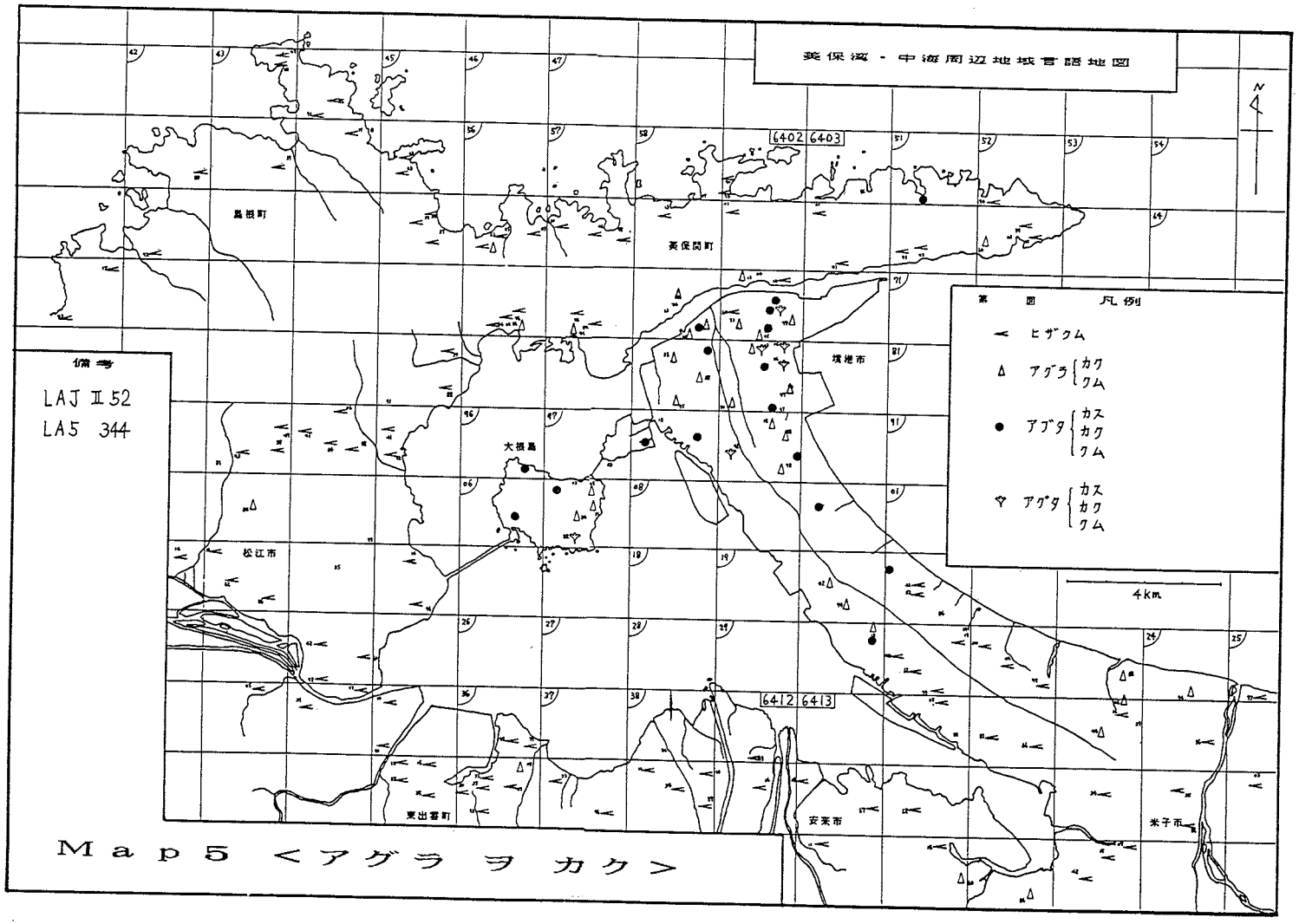
Map 2 <オタマジャクシ>


美保湾・中海周辺地域言語地図
N
6402 6403
6412 6413
島根町
美保関町
境港市
大根島
松江市
東出雲町
安来市
米子市
4km
第　図　凡例
カタツムリ
デンデンムシ
マイマイ
バイバイ
ミンミ(ン)
メーダシ
メーダシェ
ゴンゴ
ゴンボ
ダイダイムシ
ダイダイボ
ツノーメ
トートーミ
ヤギン
備考
LAJ Ⅴ 236-238
LA5 32

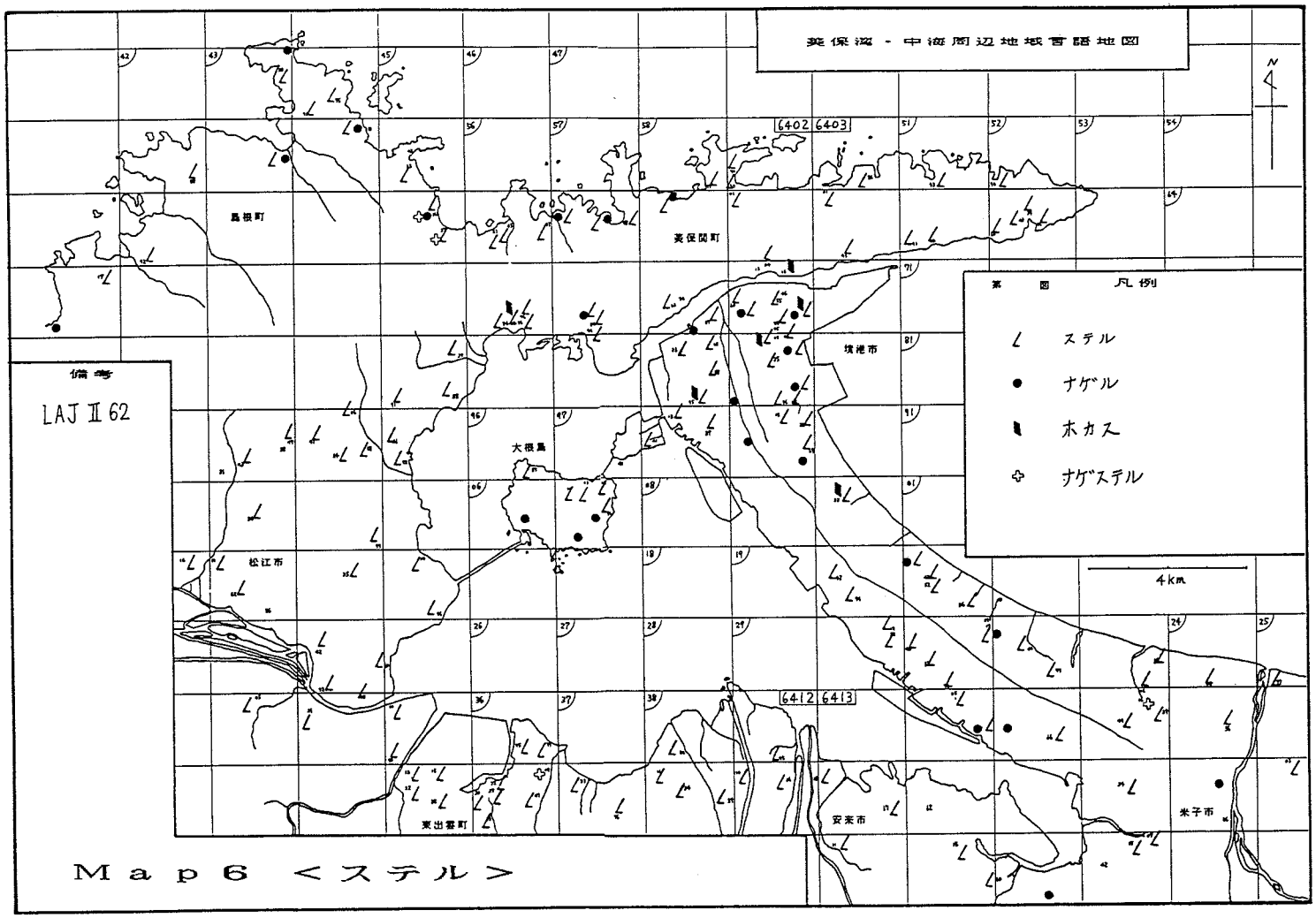
Map 3 <カタツムリ>


美保湾・中海周辺地域言語地図
N
6402 6403
6412 6413
島根町
美保関町
境港市
大根島
松江市
東出雲町
安来市
米子市
4km
凡例
ツララ
シミザエ
サイボ
サヤ
シャゴ
サイゴ
シャガ
備考
LAJ Ⅵ 262
LA5 151

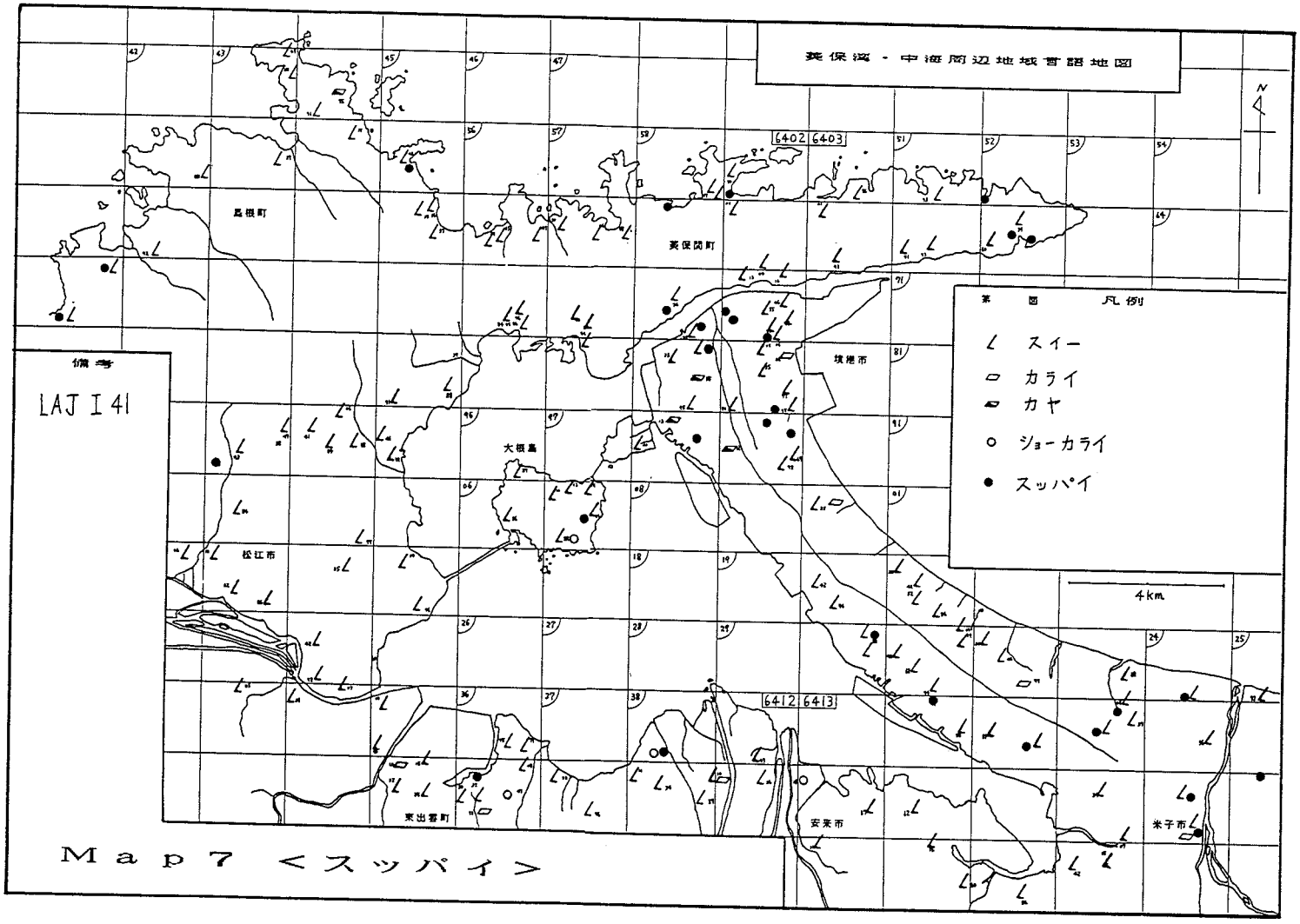
Map 4 <ツララ>


美保湾・中海周辺地域言語地図
N
6402 6403
6412 6413
島根町
美保関町
境港市
大根島
松江市
東出雲町
安来市
米子市
4km
凡例
ヒザクム
アグラ {カク クム
アグタ {カス カク クム
アグタ {カス カク クム
備考
LAJ Ⅱ 52
LA5 344

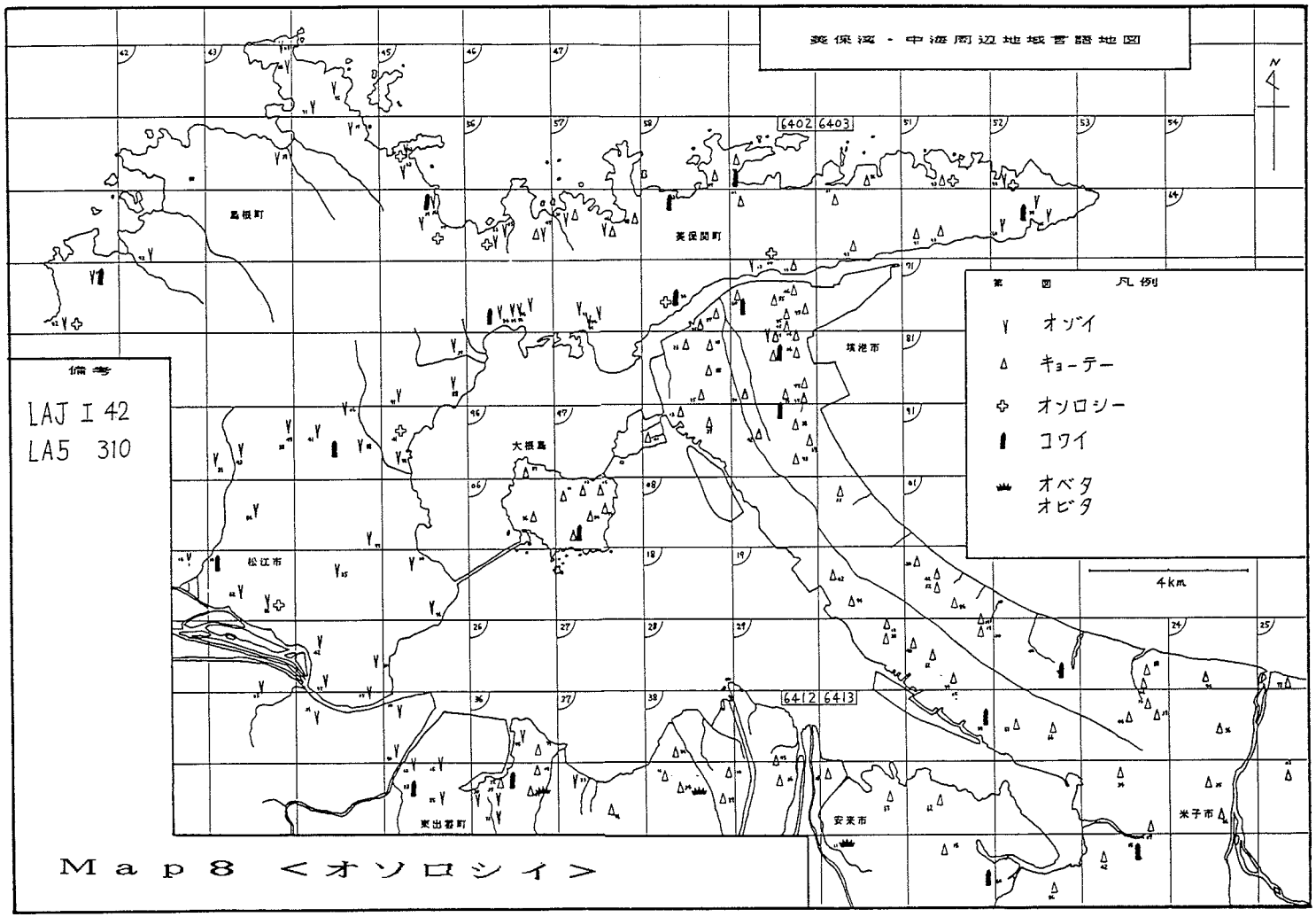
Map 5 <アグラ ヲ カク>


美保湾・中海周辺地域言語地図
N
6402 6403
6412 6413
島根町
美保関町
境港市
大根島
松江市
東出雲町
安来市
米子市
凡例
ステル
ナゲル
ホカス
ナゲステル
4km
備考
LAJ Ⅱ 62

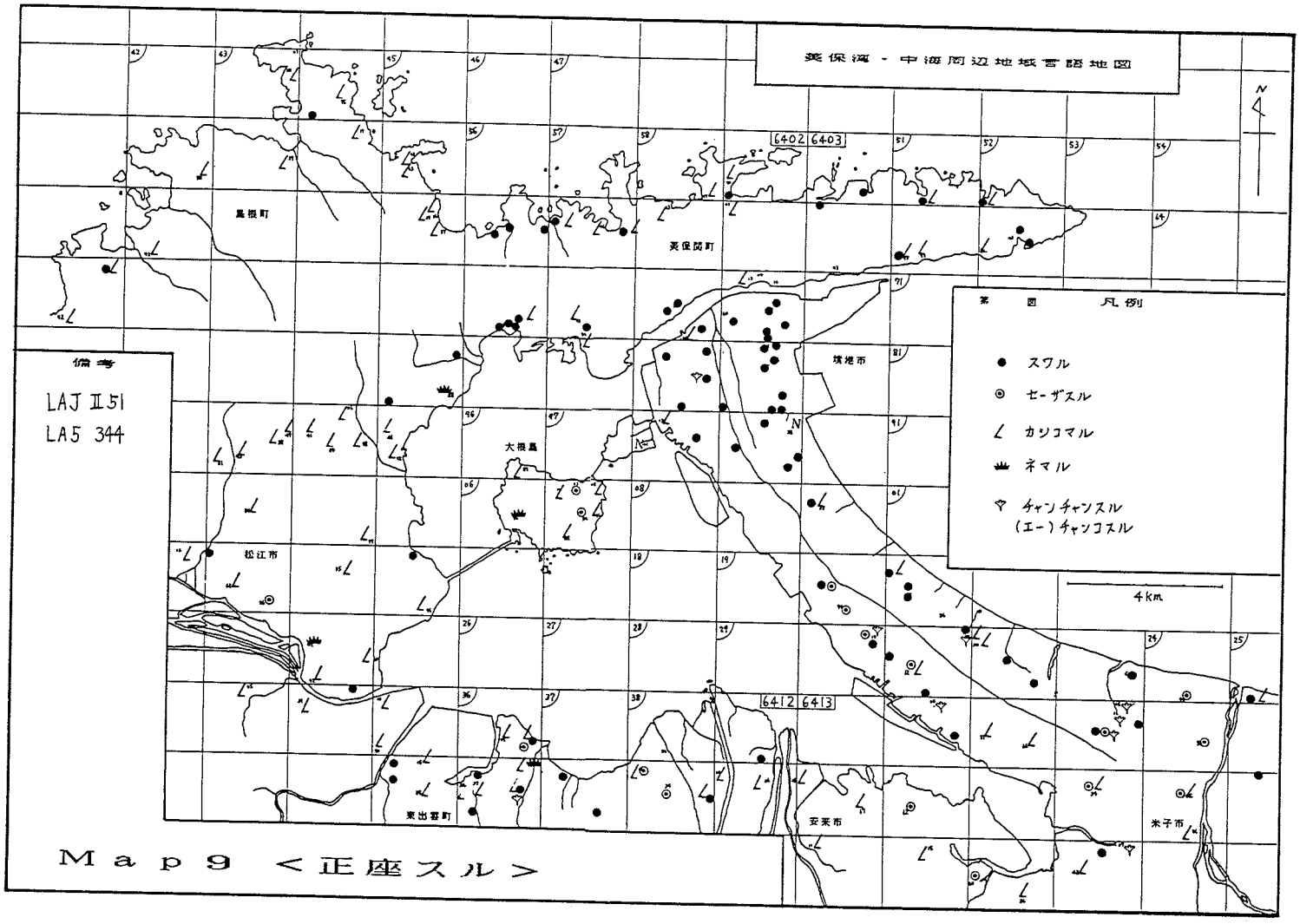
Map 6 <ステル>


美保湾・中海周辺地域言語地図
N
6402 6403
6412 6413
島根町
美保関町
境港市
大根島
松江市
東出雲町
安来市
米子市
4km
凡例
スイー
カライ
カヤ
ショーカライ
スッパイ
備考
LAJ I 41

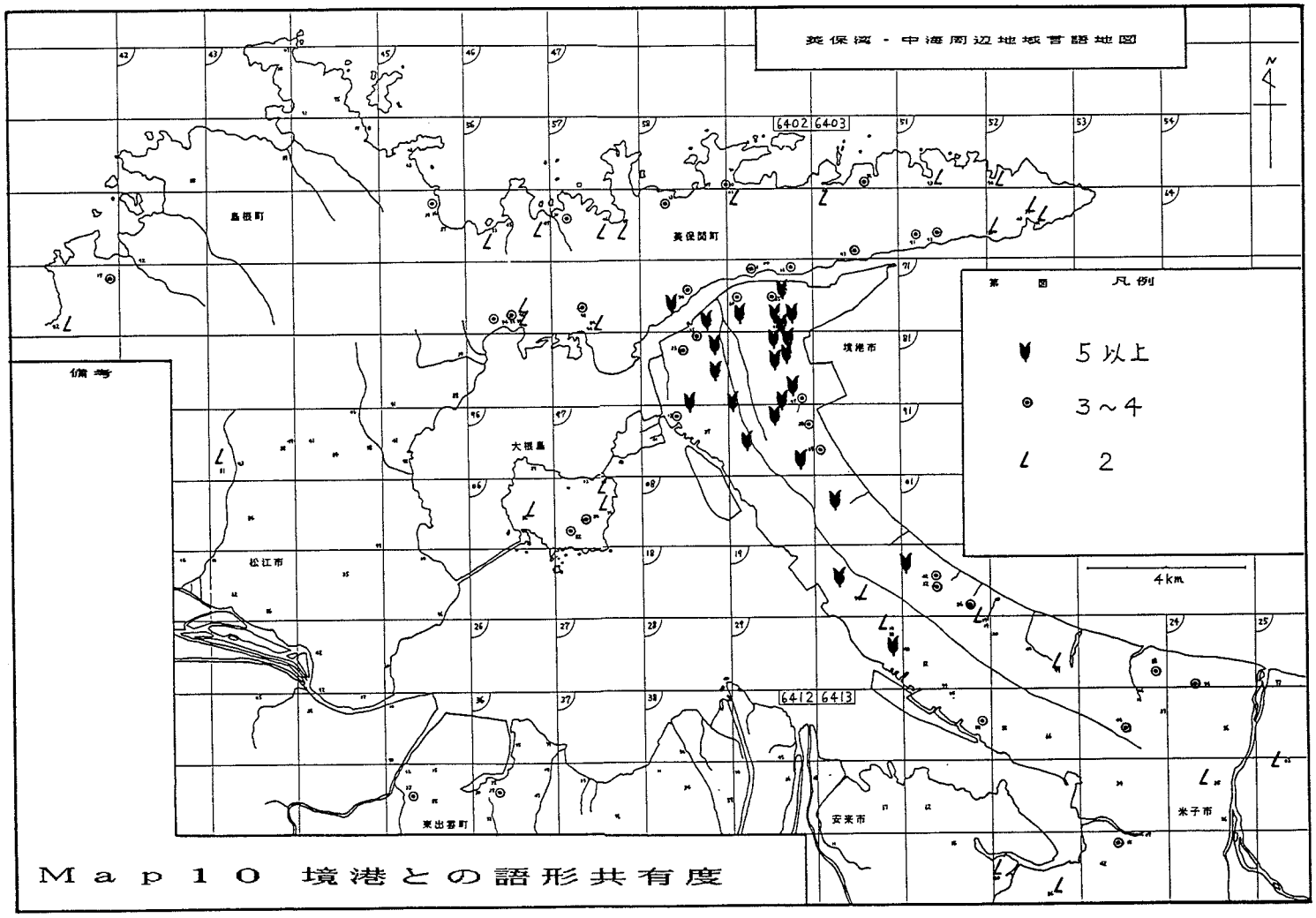
Map 7 <スッパイ>


美保湾・中海周辺地域言語地図
凡例
オゾイ
キョーテー
オソロシー
コワイ
オベタ
オビタ
備考
LAJ I 42
LA5 310
4km
島根町
美保関町
境港市
大根島
松江市
東出雲町
安来市
米子市
6402 6403
6412 6413

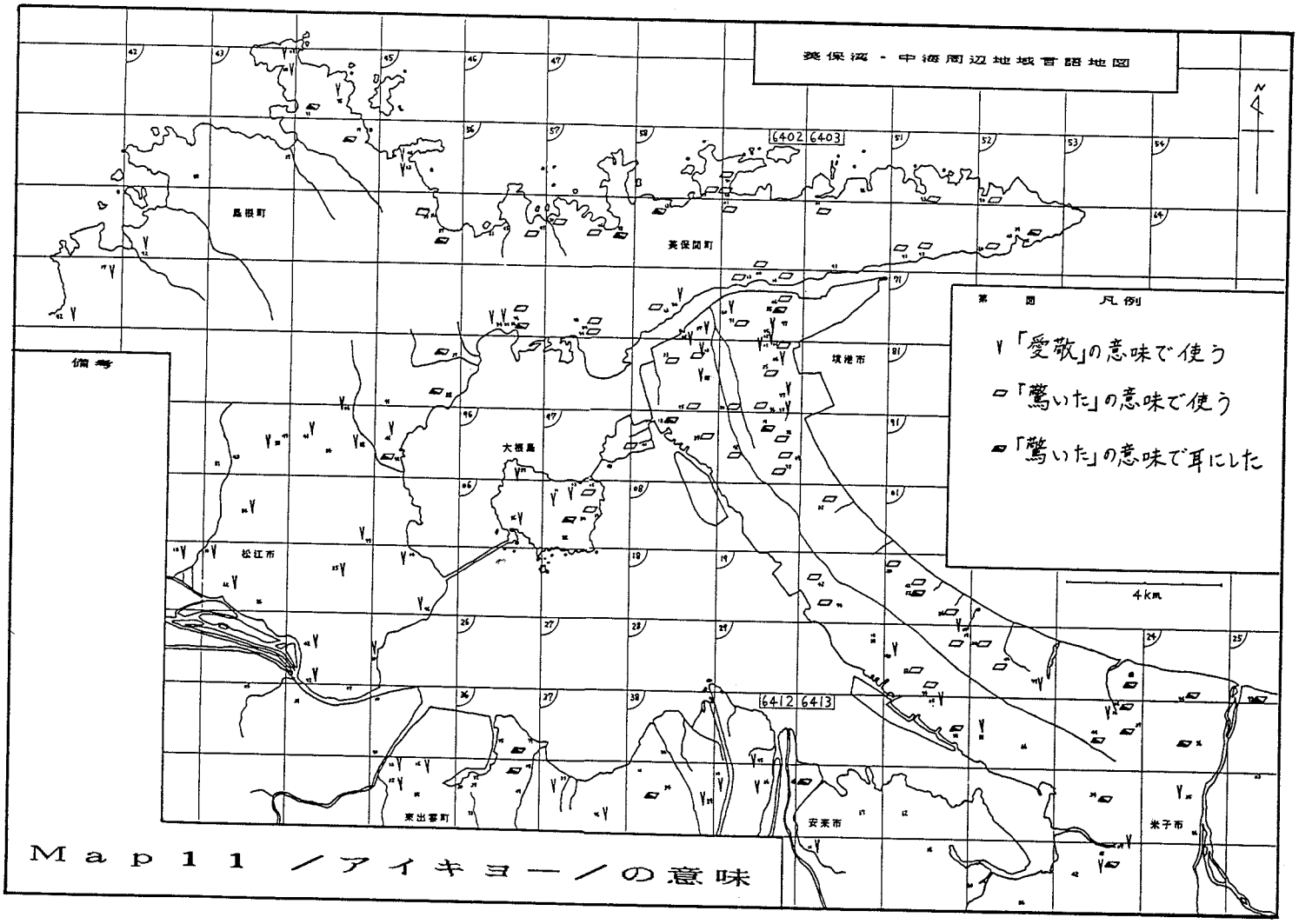
Map 8 ＜オソロシイ＞


美保湾・中海周辺地域言語地図
N
6402 6403
6412 6413
島根町
美保関町
境港市
大根島
松江市
東出雲町
安来市
米子市
凡例
スワル
セーザスル
カシコマル
ネマル
チャンチャンスル
(エー)チャンコスル
4km
備考
LAJ II 51
LA5 344

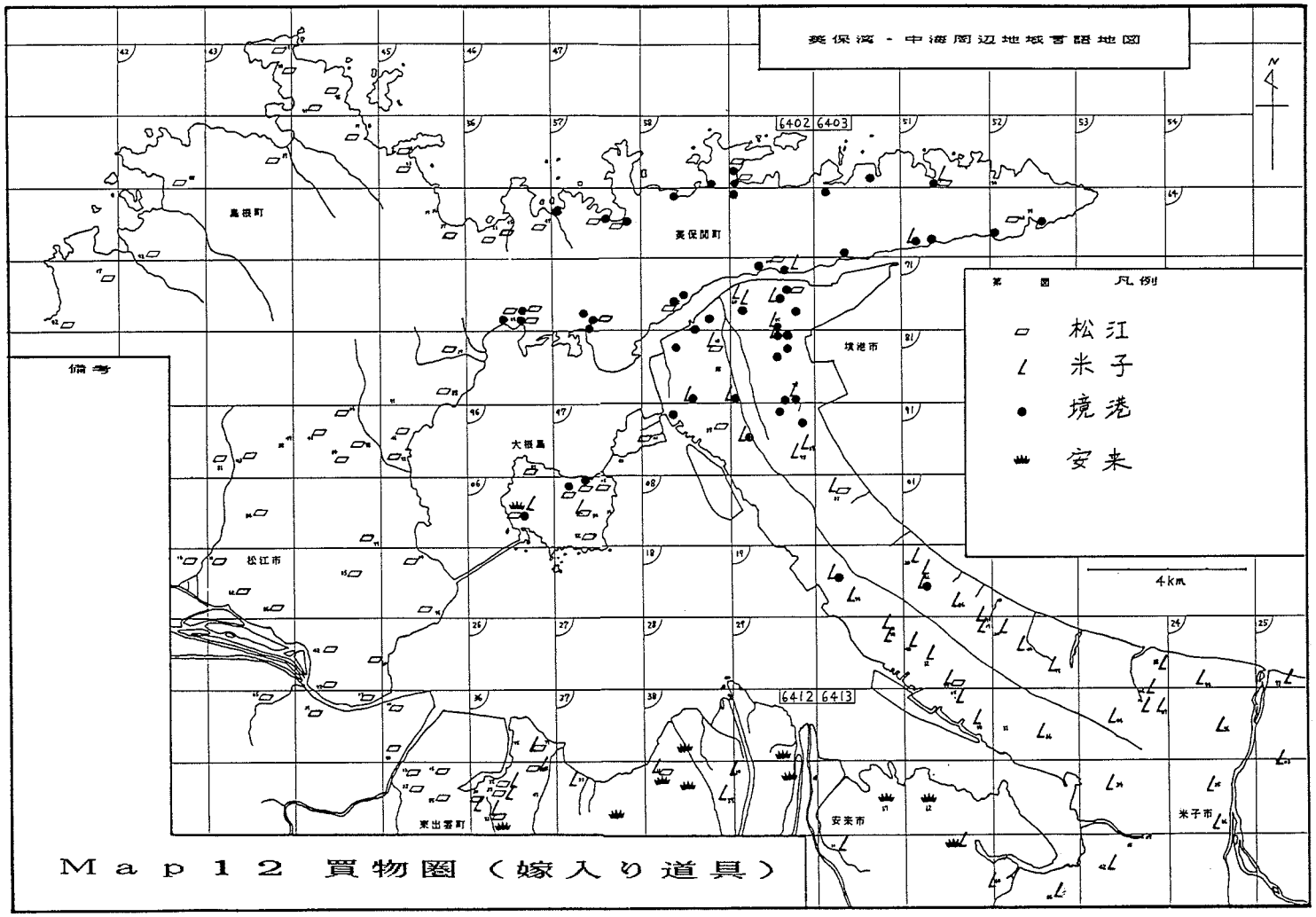
Map 9 <正座スル>



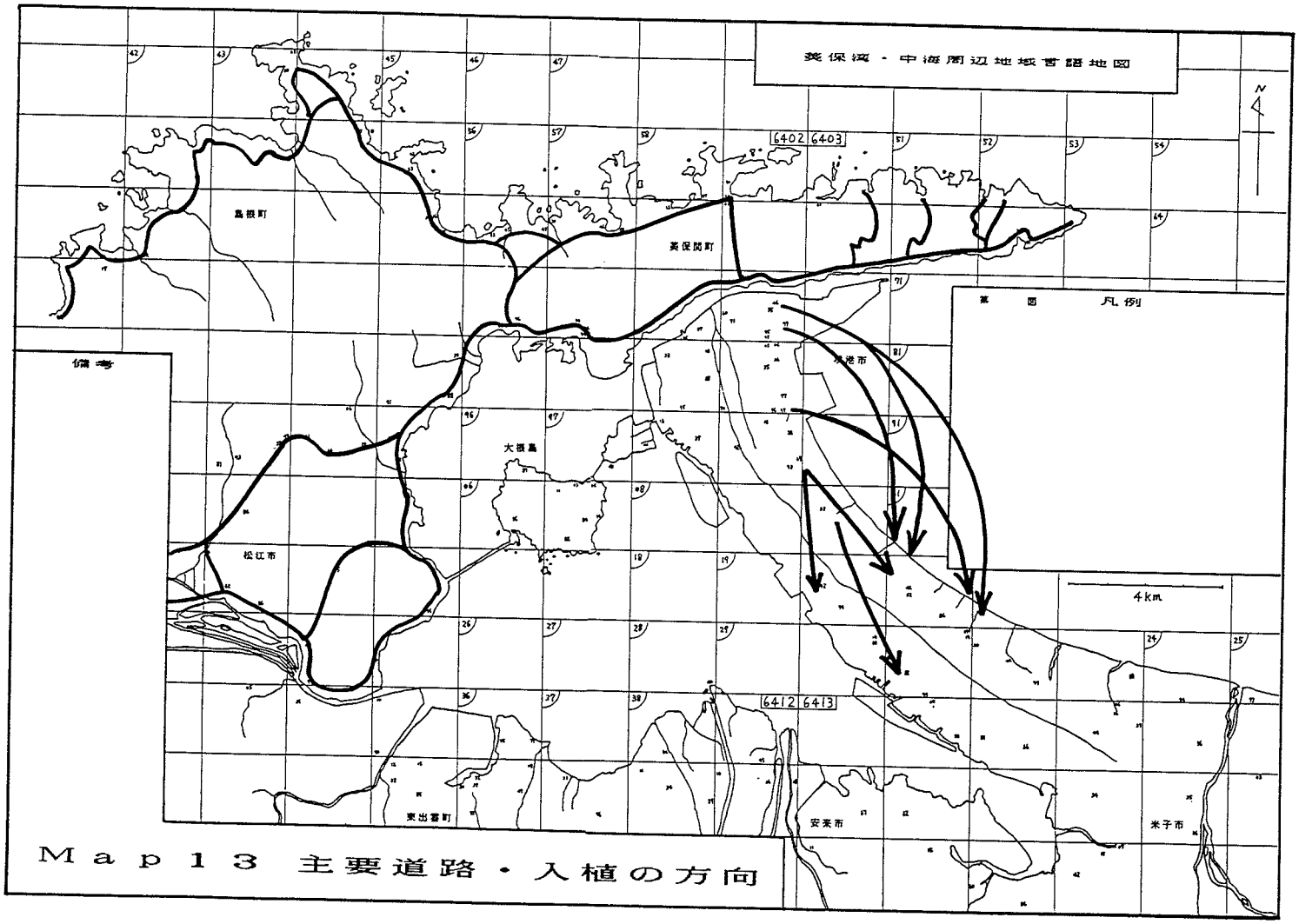
Map 10 境港との語形共有度



Map 11　／アイキョー／の意味



Map 12 買物圏（嫁入り道具）



Map 13　主要道路・入植の方向